

発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点

「発達の段階一覧表」を踏まえた内容項目の理解

Before



道徳科の授業で児童生徒に考えさせたいことを、もっとはっきりさせたいなあ。内容項目について、どのように理解すればよいのかな。



「『道徳の内容』の学年段階・学校段階の一覧(以下「内容項目の一覧」)」(学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」小学校P26,27 中学校P24,25)と「発達の段階一覧表」を踏まえて、**ねらいとする道徳的価値**を明確にしましょう。ねらいとする道徳的価値を明確にすることで、児童生徒に考えさせたいことがはっきりしますよ。

例) 小学校3学年 内容項目「勤労, 公共の精神」の理解

「内容項目の一覧」で、前後の学年と比較しながら内容項目を見てみましょう。

< 「内容項目の一覧」より一部抜粋 >

	小学校 第1学年及び第2学年	小学校 第3学年及び第4学年	小学校 第5学年及び第6学年
勤労, 公共の精神	働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。	働くことの 大切さ を知り、進んでみんなのために働くこと。	働くことや社会に奉仕することの 充実感 を味わうとともに、その 意義 を理解し、公共のために役に立つことをすること。

表現が重なるところと違うところがありますね。

例えば、低学年の「よさ」と中学年の「**大切さ**」の違いに注目することで、指導する学年の児童に**どのようなことを考えさせたいか**が分かります。

さらに、「発達の段階一覧表」を踏まえて、働くことの「**大切さ**」について考えてみましょう。

< 「発達の段階一覧表」より一部抜粋 >

「発達の段階一覧表」			
低学年	中学年	高学年	中学校
・教師や保護者など大人が決めることが正しいことであり、それに従うことが正しいこと	・自分の損得が道徳判断になったり、身近な他人から「よい子」と評されることに価値があると考えたりするようになる。	・自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。	・自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意識が高まるとともに、人間としての生き方についての関心が高まっていく。
人の考え方や感じ方が自分と同様である思い込みがちになる。	・相手の気持ちを感じたり、より深く理解したりすることができるようになる。	・自他を客観的に捉えることができるようになる。	・客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。
・具体的経験や 結果に注目して考える。	・ 行動の動機に注目して考える ことができるようになる。	・行為の結果とともに動機も十分に考慮できるようになる。	・社会規範としての規範や今までの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。
結果重視の考え方		動機重視の考え方	
		・行動の動機に注目して考えることができるようになる。	・行為の結果とともに動機も十分に考慮できるようになる。
			・行為の結果と動機どちらも踏まえる。 ※場面や状況に応じて、「結果重視」のどちらの側面からも物になる。

低学年の児童は「手伝いをすると気持ちがいい」等、**結果に注目して考える**ことが多い時期ですが、中学年の児童は「しっかりと仕事をするのは大切。なぜなら…」と**動機に注目して考える**ことができる時期ですね。

中学年の児童には、**仕事をする意味を自分なりにしっかりと捉えさせることが大事**であることが分かりますね。

3学年の内容項目「勤労, 公共の精神」では、ねらいとする道徳的価値を「**自分の仕事の意味や役目を理解して、進んで働こうとする思いを持たせたい**」としました。

After

「発達の段階一覧表」を踏まえて内容項目を理解することで、道徳科の授業で児童生徒に考えさせたいことをよりはっきりさせることができました。



発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点

「発達の段階一覧表」を踏まえた実態把握

Before



児童生徒の日常の様子や道徳性をどのように捉えれば、授業に生かすことができるかな。

「発達の段階一覧表」を踏まえて、指導する **児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉えたり**、**一人一人の道徳性の発達を系統的に捉えたり** しましょう。ねらいとする道徳的価値に対する児童生徒の見方や考え方を、具体的に把握することができますよ。



例) 小学校6学年 内容項目「正直, 誠実」の実態把握

< 「発達の段階一覧表」より一部抜粋 >

中学年	高学年	中学校
<ul style="list-style-type: none"> 自分の損得が道徳判断になったり、身近な他人から「よい子」と評価されることに価値があると考えたりするようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自我に目覚め、自分の判断や意志で生きていこうとする自律への意欲が高まるとともに、人間としての生き方についての関心が高まってくる。
他律的な考え方		自律的な考え方
<ul style="list-style-type: none"> 人の考え方や感じ方が自分と同様であると思いがちになる。 相手の気持ちを察したり、より深く理解したりすることができるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自他を客観的に捉えることができるようになる。 相手の置かれている状況を自分自身に置き換えて想像できるようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 客観的事実と自意識の違いに悩むようになる。 社会通念としての規範やこれまでの自分の価値観を捉え直すことができるようになる。
主観的な見方		客観的な見方

児童生徒の道徳性の発達を客観的に捉える

正しいと分かっているにもかかわらず行動できない児童もいるなあ。**自他をより客観的に捉えられる段階**だからこそ、友達や人の目を気にして、正しいことができないのかもしれない。

正しいことができないときの気持ちを十分に共感させ、道徳的価値に対する**問題意識**を持たせたい。

一人一人の道徳性の発達を系統的に捉える

他人に流されない児童は、**自律への意欲が高まっている中学生の発達の段階に近い**から、自分で決めたことをやり遂げることができるのかもしれない。

中学生の発達の段階に近い児童の発言を生かして、自分にうそをつかずに、明るく生きることのように気付かせたい。

After

「発達の段階一覧表」を踏まえて実態を把握することで、児童生徒の見方や考え方を生かして問題意識を持たせること、授業で生かしたい発言を具体的に想定することができます。



発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点

「発達の段階一覧表」を踏まえた教材の活用

Before



ねらいとする道徳的価値について、児童生徒に考えさせるためには、教材の活用の仕方をどのように考えればよいのかな。

「内容項目の理解」でねらいとする道徳的価値を考えられましたね。ねらいとする道徳的価値を踏まえて、教材の内容と「発達の段階一覧表」を照らし合わせながら、**教材の活用の仕方**を考えましょう。教材のどの場面を中心に扱って、何を考えさせるかがはっきりしますよ。



例) 中学校2学年 内容項目「遵法精神, 公徳心」教材「二通の手紙」の活用



「内容項目の理解」でねらいとする道徳的価値は、「**法やきまりのよりよい在り方**」に決めただけ…。

「発達の段階一覧表」と教材の内容を照らし合わせて、中心とする場面を考えてみましょう。例えば、**行為の結果と動機のどちらも考えることができるようになる発達の段階を踏まえると**、元さんが処分を受けた結果だけでなく、姉弟のために規則を破った元さんの思いにも注目させて、生徒に考えさせることができそうです。



< 「発達の段階一覧表」より一部抜粋 >

中学校	高等学校
<p>・行為の結果と動機どちらも踏まえて、深い思索ができるようになる。</p> <p>※場面や状況に応じて、「結果重視の考え方」「動機重視の考え方」のどちらの側面からも物事を捉えることができるようになる。</p> <p style="text-align: right;">動機重視の考え方</p>	<p>・人間としての在り方生き方について、様々な価値と関わらせながら、多面的・多角的に考えることができるようになる。</p> <p style="text-align: right;">多面的な見方</p>



行為の結果と動機のどちらも考えることができるようになる発達の段階を踏まえると、**元さんが自ら職を辞した場面を中心に扱い、「きまりの例外を認めるべきか」という議論をさせることで、「法やきまりのよりよい在り方」を考えさせたい**です。

物事を多面的・多角的に考えることができるようになる発達の段階を踏まえた場合はどうですか？



物事を多面的・多角的に考えることができるようになる発達の段階を踏まえると、**元さんが処罰された場面を中心に扱いたい**です。きまりを作る側（処分を下した動物園）ときまりを守る側（元さんや職員）の双方の立場に気付かせ、「**法やきまりのよりよい在り方**」を考えさせたいです。



After

「発達の段階一覧表」を踏まえて教材の活用を考えることで、教材のどの場面を中心に扱って、何を考えさせるのかを、はっきりさせることができました。



発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点 ねらいの焦点化

Before



学校の年間指導計画には、一時間ごとに道徳科のねらいが示されているけど、指導する学級に合わせて授業のねらいをはっきりさせたいな。

「内容項目の理解」「実態把握」「教材の活用」でイメージした目指す児童生徒の姿を基に明確な指導観を持ち、**授業のねらいをはっきり**させましょう。



例) 小学校6学年 内容項目「正直, 誠実」(教材「手品師」)のねらいの焦点化

内容項目の理解

本時で指導する内容項目の「正直, 誠実」は, 中学校で「自主, 自律, 自由と責任」と統合される。



自律的に物事を判断できる時期と内容項目が統合されることを踏まえ、**自分なりの誠実さを考えさせたい。**

実態把握

自律的な態度が発達し, 自分で行為の判断ができるようになる段階である。自他を客観的に見るあまり, 友達からどう思われるかを気にして, 正しいと思っても行動できない児童がいる。

自分にうそをつかず, 明るく生きることのよさに気付かせたい。

教材の活用

行為の結果とともに動機を十分に考えることができる発達の段階を踏まえ, 手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面に焦点を当てる。

手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面を取り上げ, 児童が誠実さを考えるきっかけにしたい。

指導観

指導観を明確にしたことで, 授業のねらいを次のようにしました。

手品師が自分の心に向き合って行為を決めた場面について考えることをきっかけとして, 自分なりの誠実さを考え, 自分にうそをつかず明るく生きようとする道徳的判断力を育てる。

After

「内容項目の理解」「実態把握」「教材の活用」で目指す児童生徒の姿をイメージしたことが指導観を明確にすることにつながり, 授業のねらいを焦点化することができました。



発達 の 段階 に応じた授業づくりの 視点 指導の手立ての具体

Before



ねらいを達成するために、どのように手立てを考えたらいいのかな？

例) 小学校6学年 内容項目「相互理解, 寛容」(教材「ブランコ乗りとピエロ」)の指導の手立て

ねらい

異なる意見を受け止めて自分の思いを伝え合ったピエロとサムの心を考えることを通して、謙虚な心を持ち、相手の立場を尊重して分かり合おうとする道徳的実践意欲や態度を育てる。

意見の異なる友達の考えをなかなか受け入れられない児童の実態があるので、本時では「相手の立場を尊重することの大切さ」を児童に実感させることに重点を置いて、指導したいと考えました。



実態把握で想定した児童の問題意識から、**目指す児童の姿**に迫るための具体的な手立てを考えましょう。「相手の立場を尊重するために大切なこと」に気付かせるような板書の工夫をしてみてもいいでしょうか。



始めに、意見の異なる考えを受け入れられない思いを黒板の両端に表し、そこから、互いに心を寄り添わせ、相手の立場を尊重した思いを捉えられるように板書を考えました。

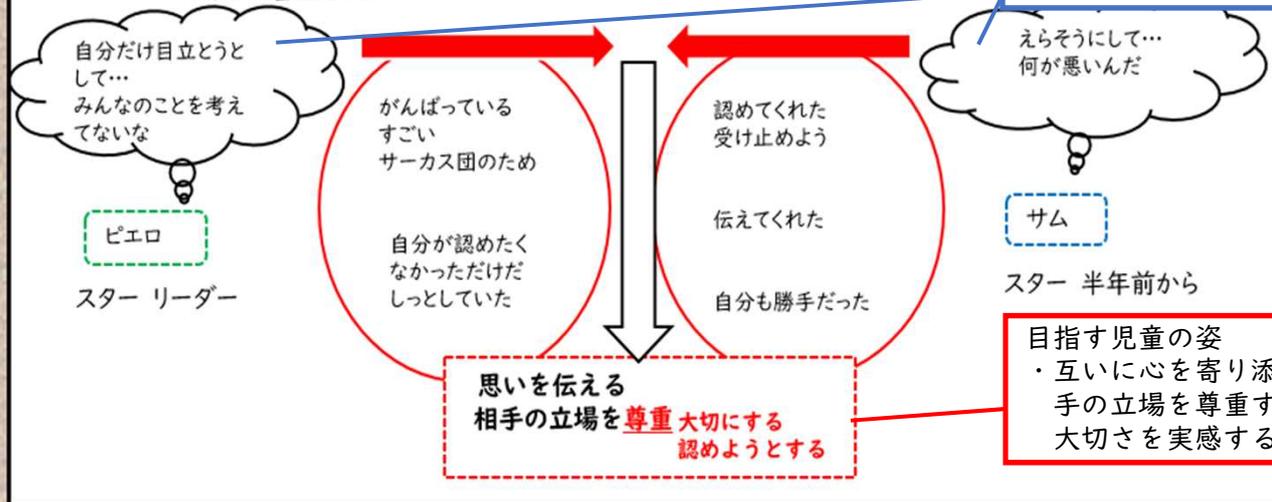
板書の工夫

むずかしい…
ちゃんと言えない

意見や考えがちがう相手と分かり合うために

実態把握から想定した児童の問題意識

・意見の異なる友達の考えをなかなか受け入れられない。



児童に考えさせたいことをはっきりさせて、板書を工夫しましたね。さらに、授業のねらいを達成するための発問を考えてみましょう。



意見の異なる他者の考えを受け入れられない気持ちに共感させるため「二人はお互いをどのように思っていたか」という発問や、「相手の立場を尊重することの大切さ」を実感させるため「相手を憎む気持ちが消えたのはなぜか」という発問を考えました。



After

児童生徒の問題意識と授業で目指す児童生徒の姿を意識することで、指導の手立てを具体的に考えることができました。授業のねらいを達成するために、指導観を明確にして発問や板書、教材提示等を工夫することが大切だと分かりました。

